

スポーツファーマシスト を知っていますか？



「スポーツファーマシスト」という言葉を聞いたことがありますか。「スポーツファーマシスト」とは、JADA（公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構）が認定した薬剤師です。最新のアンチ・ドーピング規則に関する情報・知識を持ち、アスリートやコーチ、サポートスタッフなどに対し、使用する薬に禁止物質が入っていないかの確認や薬の正しい使い方の指導などを行います。そのほか、地域や学校教育の現場にて、医薬品の適正使用について話をしたり、アンチ・ドーピングに関する情報提供をしたりもします。公正さを重んじるスポーツ競技の世界において、ドーピングは重大なルール違反。選手生命に影響を及ぼすこともある危険な行為です。

ドーピング検査は、オリンピック・パラリンピックに代表されるような、世界規模の競技大会だけでなく、国民体育大会やさまざまなスポーツの競技会などでも実施されています。ちなみに、2025年には滋賀県で国民体育大会が開催されます。滋賀県内のスポーツファーマシストが各競技に配置されることとなるでしょう。

近年、日本で発生しているドーピングとして、「うっかりドーピング」があります。違反と知りながら行うドーピングではなく、うっかりミスで禁止物質などを体内に取り入れることをいい、日本ではこのタイプのドーピング規程違反が多いといわれています。処方薬だけでなく、市販薬、漢方薬、栄養ドリンク、サプリメントなどにも禁止物質が含まれていることがあり、うっかりドーピング違反を起こしてしまうため注意が必要です。



当院には、現在3名のスポーツファーマシストが在籍しております。スポーツに本格的に取り組んでいる方で、ご自身の薬について疑問や不安があるときは、お気軽にご相談ください。

薬剤科

科長 佐敷暢子（スポーツファーマシスト）



復帰のご挨拶

琵琶湖中央病院には平成22年から29年まで勤務した後、この度ご縁を頂き8月に復帰することになりました。私は昭和54年に京都大学を卒業し、血液内科専攻の内科医としてスタートしました。当時はまだ医療の中でリハビリに対する認識が低く、身体破壊的な化学療法で起こるADL低下に対してもリハビリは一般的ではありませんでした。リハビリの意義や必要性に目を開かされたのは、琵琶湖中央病院での最初の7年間でした。

約3年半慢性期医療に携わった後感じたことは、社会復帰を目指す回復期リハビリの臨床現場がとても活気に満ちていることでした。「寝たきりにならない」「日常生活に戻る」リハビリへの熱意が伝わってきました。高齢化社会における「寝たきり防止」にはリハビリが主役ですが、特に短期集中で行う回復期リハビリの役割は大きいと考えます。今後、ウィズフレイルを乗り越える回復期医療に取り組みますので、よろしく願い致します。

医師 杉山 建夫



腰痛サポートダイヤル
☎ **090-2382-8432**
受付時間 9:00~15:30
(月曜日~金曜日、祝日除く)

